

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2025年度 助成者)

作成日 2025年8月14日

氏名 (フリガナ)	大原 優奈 (オオハラ ユウナ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2025年8月4日(月)～8月9日(土)
大学名	奈良県立医科大学
学年	5年

今回の医学部夏期集中医学英語研修を通して、英語での問診やケースプレゼンテーションを実践的に練習できるだけでなく、志の高い仲間や経験豊富な先生方との交流を持てたことが非常に貴重な経験でした。私は海外臨床実習を計画しており、プログラムへ応募した当初は医学英語の上達が主な目的だと考えていましたが、実際に参加してみて、アメリカの医学教育や医療体制とその中で求められている医学生やレジデントの動き方を様々なカリキュラムを通して学べた点が何よりも良い体験でした。

実習内容は大きく分けて3つあり、①問診やケースプレゼンテーションの練習②PBL形式のディスカッション③アメリカで実際に働いておられる先生方による英語でのスペシャルレクチャーという内容がバランスよく組み込まれているプログラムでした。1つ目について、現地で働いておられる医師の方に参加者一人一人が詳しくフィードバックをいただけて、外国の医療現場で何が求められているのかを考える非常に良い機会になりました。2つ目のカリキュラムについては、これまでの勉強法では疾患を一つ一つ学んでいて知識が繋がっていない感じていた部分がありましたが、このトレーニングを経て、主訴からさまざまな疾患の可能性やその検討方法を皆で話し合うことで、科や臓器の分類を超えて網羅的に考える視点を新たに得ました。3つ目は、アメリカの医学教育や医療体制、働き方について具体例を交えて伺えたことがすごく刺激的でした。

プログラムの内容はどれも濃く、短期間詰め込み型だったので復習の必要性を痛感しますが、中でも特に苦労したのが医学用語の語彙の少なさと、プレゼンテーションの際に情報を詰め込みながら簡潔に話す力でした。課題を見つけて勉強への意欲がより一層高まったので、今回のプログラムで得た経験を最大限活用してこれから勉強に励みたいと思います。

また、プログラム全体を通しては、日本全国から集まった医学生や、現地の医学生との交流を経て、皆がとても意欲的で情報量も多いことに刺激を受けました。短期間でしたが活発で積極的に参加する形のワークショップだったので、私自身常に積極的な姿勢でいるように気をつけているうちに少しできることが増えたり、逆に課題が見つかったりと、自分の新たな面を知ることができ、勉強への意欲もより一層高まりました。海外臨床実習で実際の医療現場に触れる前に、このような研修に参加する機会をいただけて日米医学医療交流財団にはとても感謝しています。将来どうありたいかを考えて今から計画的に行動するように心がけて、今回学んだ知識と得た繋がりを大切にしながら、これから実習を実りあるものにできるよう精一杯頑張ります。